

「私が知った何よりも大切なもの」

福山市立城南中学校 3年 青垣 由彩

皆さんは「支える」という言葉からどういうことを想像しますか。辞書を引くと、「わきから力をそえ倒れないようにする。」とあります。私はこの「支える」という言葉にとっても深い思いがあります。そのきっかけは昨年の職場体験学習での学びでした。

私は去年、大田記念病院で職場体験をさせていただきました。私が病院での体験を選択した理由は、私の母が看護師をしており、その姿に憧れていたからです。今まで医師・看護師というイメージが強かった病院。しかし私の体験した仕事は「施設管理」というものでした。

床やトイレの掃除、体重計の修理、機械室での設備の点検等。病院には、こんな仕事もあったのか、と全てが驚きでした。私が心に残っていることは

「病院の管理で見落としがあると、お医者さんだけでなく患者の方にも影響が出る。」

という担当の方の言葉です。施設管理をされている方々は患者さんと直接関わることはほとんどありません。しかし患者さんのために一つ一つ丁寧に掃除や点検をされるその姿は、ひたむきでとてもかっこよかったです。病院は決して、医師や看護師の方々だけで成り立っているものではないということを初めて知りました。薬剤師の方や栄養士の方、施設管理をするの方々など、それぞれの役割があり、多くの人達の「支え」があるからこそ、みんなが安心して力を発揮できる。どれか一つでもその「支え」が欠けてしまったら、医療は成り立たなくなってしまう。物事には全て目には見えなくても「支える」人々が存在するのだということ。これが私が知った「何よりも大切なもの」です。その気づきは私の財産となりました。

そして今、私は考えます。去年お世話になった病院の方々はどうされているだろうか。医師や看護師の方はもちろんのこと、病院の「支え」となっている方々は想像を絶する苦勞をされているのではないだろうか。他にも、いろんな場所で懸命にコロナウイルスと戦っている人達のご苦勞は。。。目に見えることだけでなく、その向こう側にいる人たちに考えが及ぶようになったのは、職場体験での経験があったからです。

私は今、3年生となり進路について考える毎日です。でも、自分の将来をみつめたとき、私の進むべき道筋はもうはっきりと見えていました。「何よりも大切なもの」そして「支える人たちの存在」を知っていたからです。どの高校に進み、どのような職業に就いたとしても私は人を「支える」ことの出来る人になりたい。いつ終息するか分からないコロナ禍。またこれから生きていく中で出会うかもしれない様々な困難。そんな中でも私は、大田記念病院で学んだ「何よりも大切なもの」を心に置いて自分が出来ることを愚直に誠実に行う人でありたい。いつも人を「支える」人でありたい。今まで自分を「支え」てくれた人達を、今度は私が「支える」ことができるように学んでいきたい。職場体験学習で学んだことが私の人生の道標となりました。この灯りに向かって歩み続けたいと思います。